

東京の産業と教育

会の目的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

「東京の産業を支える人材の育成 ～新たな専門高校改革～」

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長

出張吉訓



近年、高度情報化やグローバル化に伴う社会・経済の構造的な変化により、我が国の世界における状況は大きく変化しています。国の経済状況を示す代表的指標である GDP において、世界に占める日本経済のシェアは、平成7年をピークに下がり続け、平成22年には3位に転落し、相対的に日本は世界における存在感を低下させています。こうしたことが、我が国の将来に対する不透明感や閉塞感を増幅させており、東京においても、東京のものづくりを支える中小企業数が減少するなど、ものづくりを取り巻く社会経済環境は大きく変化しています。

これまで都教育委員会は、東京の産業構造の変化や生徒の多様なニーズに応え、専門高校の魅力を高めるため、専門高校の活性化・特色化を図ってきました。産業界の求める即戦力となる人材を育成し、雇用のミスマッチを図る観点から、六郷工科高校に全国初のデュアルシステム科を設置し、卒業生の約半数以上が就業訓練先の企業に就職するなど成果を上げています。また、先端的な科学技術を学び、理工系や薬学系の大学への進学を目指す科学技術高校、ビジネスや英語の学習に重点を置き、将来国際社会で活躍できるスペシャリストを目指す進学型の商業高校、生産から流通・消費に至る過程を総合的に学習し、社会に貢献する産業人・起業家の育成を目指した我が国で初めての産業高校などを開校しました。

一方で、東京の伝統工芸や切削加工などを専門的に学ぶため、ものづくり企業の技術者や熟練技能者

を講師とした授業を実施するほか、都市型農業の特色を生かして、園芸・畜産技術、食品の製造や衛生管理、緑地保全などに関する実践的な教育を展開しています。

こうした取組により、一定の成果を上げてきましたが、先述したようにその間、社会状況が大きく変化してきており、この変化に対応するため、今年9月、東京都教育委員会では、都立高校白書「都立高校と生徒の未来を考えるために」を発表しました。

その中で専門高校の課題として、中学生が専門高校の教育内容等を十分に理解しないまま入学を選択している。高校生の専門科目を学ぶための土台となる基礎学力が不足している。学力不足や専門高校における学習内容等に適応できないため、中途退学する生徒が依然として高い。現在の専門高校の教育内容や体制は、社会の変化と期待に十分には応えきれない。専門高校における実習等には、充実した施設・設備などが欠かせないなどを挙げています。

都教育委員会では、これらの課題に対応していくため、今年度末までに新たな「都立高校改革推進計画」を策定し、企業や社会のニーズに応じた工業高校におけるものづくり教育の在り方を検討して、これまで東京が培ってきたものづくりの技術と伝統を支えるための人材を質と量の両面から輩出していけるようにしていきます。そのためには、東京都産業教育振興会の会員をはじめ産業界と教育界が、これまで以上に連携を図っていくことが大切であると言えます。

リーダーとなれる人材の育成

京北学園白山高等学校

副校長 杉原 米和



これからのリーダーに必要な力として、第一にヴィジョンを描くこと（これは「志を持つこと」と言えます）、第二にコミュニケーション能力、第三にネットワーク能力（関係構築能力）だと言われます。

白山高校は「学力と人間力」の両方の育成を目指します。別な言葉でいえば「進学指導」と「特色ある人間教育」の「二兎を追う教育」を目指します。白山高校が「PBL（プロジェクト・ベース・ラーニング：探究型学習）」や「課題研究」を中心とした、生徒の意欲を高め自信をつけさせる人間教育、それを土台として、その上に立った進路部を中心に、より高い大学進学を目指していきます。

「PBL」では学びの出発点を自分の中に置きます。得意を育てるということです。

「課題研究」の授業では、教科横断のテーマに取り組みます。今年は「アジア」がテーマです。

新しい学校創りの3本の柱は、以下の通りです。

1. 進路を設計する力を育てる
2. 意欲を育てる探究型の学び
3. 専門的職業人への挑戦
(高大7年教育でスペシャリスト育成)

具体的な改革内容を3点ご説明いたします。

まず、1点目は進学指導強化です。土曜日と朝の時間を大きく変えました。毎週土曜日は、授業と特色あるキャリア教育を実施しています。「朝学習」を毎朝実施しています。学ぶ習慣づくりです。「英・国・数」の順で10分間テストを実施しています。これは1年から3年生まで同じ時間に実施し基礎学力の定着をします。又、実力テストの回数を増やし、教員の分析会を持ち、生徒との進路面談を細かく実施しています。ベネッセファインシステムという生徒一人一人の個人データ（カルテ）を活用していま

す。その他にも進学指導のために生徒の大学訪問、進路講演会、保護者のための講演会も実施しています。この夏は1年生全員が河口湖にある東洋大学セミナーハウスで勉強合宿を実施しました。又、1～3年まで共に10日から2週間ほどの講習を実施しました。そのほかにも検定資格取得のための英検、情報、簿記講座を実施しました。

2点目は、キャリア教育の推進です。本校のキャリア教育は、生徒自身が自分の良さや可能性に気が付き、夢を持ち、その実現に向けて努力することを援助することです。それをあらゆる教科で支援します。土曜日を中心に生徒の興味関心を引出し、主体性を養う「CUD（キャリア・アップ・デー）」という取り組みを始めています。授業だけでなく、PBLの発表会、資格取得講座、社会人や大学生による「ようこそ先輩講座」、面接指導、課題研究特別授業、大学の先生による進学講演会等 盛りだくさんです。又、土曜日の放課後、東洋大学留学生との交流会「レッツ・チャット」（英語で話そう）を3回実施しました。又、大学や専門学校見学・インターンシップ・博物館見学を実施しています。他にも、保護者対象講座として「パソコン講座」や「親子関係講座」を実施しています。

3点目は、資格取得です。スペシャリスト養成という点では、これも大きく前に踏み出します。今まで、英検、漢検、数検、全経簿記等が中心でした。今年からは情報検定、全商簿記、日商簿記にも取り組んでいます。

毎年白山高校では、入ってきた生徒に、「小中時代に好きだったことは何」、「得意なことは何」と聞きます。それを高校でも伸ばそうと言います。学びの出発点は自分の中にあります。その芽を大きく育て花開かせることを応援しています。

本校における「産業社会と人間」の取組み

東京都立若葉総合高等学校

副校長 山之口 和 宏

1. はじめに

本校は平成17年に開校した、東京都で4校目（多摩地域では初）の総合学科高校である。総合学科の特色である幅広い科目選択、生徒の意欲向上と進路意識の深化を図るキャリア教育を通して、生徒の個性と能力の伸長、生き抜く力の育成をめざし、「進路指導充実校」を掲げている。本稿では、本校におけるキャリア教育の中心の一つである「産業社会と人間」の取組みについて報告する。

2. 若葉総合の「産業社会と人間」

学習項目は、①自己理解と発見、②学び方を学ぶ、③系列・科目の理解と研究、④職業の理解と研究、⑤ライフプランの作成の5つであり、1年を通して①から⑤までの項目を、常に関連を持たせながら進めている。

4月—新入生キャンプ

2泊3日の期間内で、・若葉総合高校を知ろう！
・自分を知ってもらおう！ ・知らない自分を見つけよう！ ・グループパワー発見！ ・「どっちも」は、どっちつかず！ などの内容を実施する。

5月—職業研究

事前に外部講師からの講話を受けたのち、班ごとに一つの職業を選択し、調査をする。プレゼンテーションの手法も学んでから、調査発表にあたる。

6月—進路探求への第一歩

秋から本格化する科目選択に向け、若葉総合高校の科目選択のルールなどを学び、架空の生徒がどのような科目を選択すれば良いかを班で考え、発表する。

7～8月—夏季課題

職業または学問についての調査に各自が取り組む。

9～10月—上級学校訪問

外部講師によるマナー講習を受け、訪問する大学・短大へグループごとに電話連絡して必要事項を確認し、上級学校を訪問したのち、全員がお礼状を作成する。

11月—職業人講話

準備として「職業人」に関するビデオを視聴する。その後、「看護」「保育」など本校生徒が希望する分野の職業人を招き、お話を伺う。

1～2月—マイライフプラン

先輩のライフプラン発表のビデオ視聴や、自分史の振り返りを導入とし、その後、外部講師（社会人や大学生）の話を伺う。これらを通じて、自らのライフプランをまとめ、全員がクラス発表をする。最後に、クラス代表2名が全体発表にのぞむ。

3. おわりに

第六期生（昨年度、1年次で「産業社会と人間」を受講）が、今年の9月にあるアンケートに回答した感想のいくつかを紹介し、本稿の結びとする。

○ 私は何がしたいか、将来どうなりたいのかなど、全く想像できていなくて、不安だらけだったけど、産社のおかげで、今、やりたいことが見つかり、その夢に向かって今やらなければいけないことがわかりました。

○ みんなとコミュニケーションがとれる授業でした。いろんな活動の中で、最初、あまりクラスのみならず話せていなかったはずが、気づかぬうちに、誰とでも話せる状態になったから、自分にとってとても大切な授業でした。

○ 将来を考え、今の目標を見直すきっかけになりました。入学当時は、ずっとある職業に就きたいと考えていましたが、この授業を通して、その職業のことを深く知り、もっと別の働き方のほうが、自分に合っているのではないかと思ったきっかけになりました。また、いろんな生徒がいるので、今まで知らなかった職業についても知ることができました。

○ みんなの前で発表し、それを相手にわかりやすく工夫するということの難しさを感じ、もっとプレゼンテーションとかの能力を高められたら良いなと思わせてくれる授業でした。

国際デュアルビジネス専門学校 国際ホテルデュアル学科 1年 井上 いずみ

私が専門学校に興味を持ったのは、大学在学中のアルバイトがきっかけでした。

大学1年の秋から卒業までの約三年半、飲食店でアルバイトをしていました。幼少期から大の恥ずかしがり屋でサービス業は無理だと思っていた私が、自分の行動がきっかけで笑顔になるお客様の姿を見ることができたときに大きな喜びを感じることができました。こうやって、人々が「笑顔になれる瞬間、安心できる空間」を作っていきたい、お手伝いをしたい、そう思ったとき、様々なサービスの集合であるホテルについて学べる専門学校で勉強しようと考えました。

国際デュアルビジネス専門学校の国際ホテルデュアル学科は、「学校での授業」と「ホテルでの研修」を並行して行います。授業で学んだことをすぐ実践することができる、というところが大きな魅力です。授業は、高校までの勉強と違って専門性の高い授業を行っており、ホテル業界の歴史、フロント業務に関する知識、レストランサービス実技・知識、英会話等があります。

私は現段階で、レストランサービスへの関心が高く、また卒業後もその方面を主に考えています。就職活動はまだ始まっておりませんが、まずは自分がどんな場

所で働きたいのか考えるため、サービスの勉強のために、休みの日は実際にホテルでの宿泊やレストランへ食事をしに行きます。どんなホテル・レストランでも、良いところと悪いところは必ずあります。それらも含めて、自分に合っているのはどういうところなのかを探していきたいと考えています。

専門学校は、一年間もしくは二年間の短い期間のところがほとんどです。その短い期間でどれだけ多くのことを吸収できるかは、本人次第です。専門学校はその名の通り、専門的なことを学ぶ学校です。そこでは様々な年齢、国籍の人々が、日々「自分」を感じ、悩み、もがきながらも前に進もうと頑張っています。将来へ大きな期待をしている皆さん、ぜひ努力してください。学生時代に培ったものは、後で大きな自信になると信じましょう。



機械研究株式会社

資本金：44,700千円 代表取締役：茂岡 弘
東京都台東区台東 1-33-6
TEL 03-3839-5940

<創業>

昭和30年10月 東京機械研究所 創立
昭和47年7月 機械研究(株)として再出発
平成元年4月 現住所に移転 現在に至る

<従業員数、営業拠点>

6名、本社及び平塚工場

<経営理念>

昨今のマニュアルに依存した事故対応にも見られる様に少し想定を外れると、右往左往して対応出来ない現況は基本を忘れた最先端技術の表面的な習得によるものと思います。地道で時間が掛かるかもしれませんが基礎をしっかりと理解する為の手助けとなる装置類を開発・提供します。

<主要営業品目>

教育機関向け水力・水理・風洞等の流体関係実験装置、蒸気・内燃機関・熱交換・熱伝導・伝熱等の熱関係の実験装置、太陽光・風力・燃料電池等のエネルギー関係の実験装置及び民間企業向け実験・試験装置の開発・設計・製造・販売並びにメンテナンス

<青年へのメッセージ>

最近の青年は受動的な人が多い様に感じます。失敗を恐れず、わからない事は恥を忍んで他人から教わり、積極的に物事に当たる事を薦めたいと思います。また、工学の分野では物の使い捨てはやめ、故障したら極力自分で分解し、修理する様トライしましょう。多くの知識が得られます。

平成23年度 新会員校の紹介

東京都立小石川中等教育学校

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-29-29
TEL 03-3946-5171 FAX 03-3946-5172

【本校の紹介】

本校は、都立小石川高校を母体として平成18年度に開校した都立初の中等教育学校です。途中からの入学がない、完全6年一貫制の「よさ」を存分に活かした教育活動を展開し、国際社会で活躍するリーダーとなり得る人材の育成を目指しています。

【教育理念と特色】

教育理念は「立志・開拓・創作」。これは大正7年創立の府立五中の校是で、以来連綿と受け継がれてきました。本校の6年一貫カリキュラムは、校是を理念に、以下の3つを特色として編成されています。

1. 小石川教養主義

広く深い知識の裏付けを重視する教養教育は「小石川教養主義」と言われてきました。全ての科目を学び、基本である授業を大切に、理系文系には分けません。特に、「課題研究・小石川フィロソフィー」は小石川教養主義の集大成といえます。

2. 理数教育

小石川の理数教育には古くから定評があります。小石川高校のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）に続いて、今年度新たに5年間の指定（文部科学省）を頂きました。小石川として通算10年間の取り組みとなります。さらに、今年度は海外理数系教育重点校との連携分野でコアSSHの指定も頂きました。これからも、日本学術会議や大学、研究所等をはじめ、海外の理数系学校等と連携し、さまざまな活動を展開していきます。

3. 国際理解教育

充実した英語教育により生徒は高い英語能力を身に付けます。全員が参加する国内語学研修、海外語学研修、海外修学旅行では、身に付けた英語をツールとして、異文化理解、学校交流、意見発表等の取り組みを行っています。



東京都立白鷗高等学校・附属中学校 全日制中高一貫教育校

西校舎 東京都台東区元浅草1-6-22
TEL 03-3843-5678 FAX 03-3841-6925
東校舎 東京都台東区元浅草3-12-12
TEL 03-5830-1731 FAX 03-3843-5761

1888年に創立した本校は今年123年目を迎えました。これまで教育理念「開拓精神」のもと、きめ細やかな指導をモットーに、優秀な人材を数多く輩出し、地域の信頼に应运ってきました。その良き伝統を受け継ぎつつ、平成17年都立ではじめての中高一貫教育校として附属中学校が開校し、今年で7年目になりました。この3月には中高一貫校1期生が卒業し、東大5名を筆頭に難関国公立10名と都立の中でも上位の進学実績を実現し白鷗旋風と騒がれました。

白鷗が最も大切にしているのは毎日の学習です。「辞書は友達、予習は命」を合言葉に、授業を第一に考え教員、生徒が真剣に取り組んでいます。

浅草と上野の中間点に位置する本校は、この立地条件を活かし、日本の伝統と文化を理解する学習を行うとともに、国際理解教育にも力を入れ、海外語学研修、海外修学などを行っています。このような取り組みの中、中高一貫教育校の最終目的は将来世界の様々な分野で活躍できるリーダーの育成にあります。

本校には他の中高一貫校に無いものが二つありま

す。一つは、特別枠生徒の募集です。A枠では英検・漢検・数検を応募資格とし、B枠では日本の伝統文化を重視し、囲碁・将棋・邦舞・邦楽・演劇での実践経験により受け入れ決定を行っています。この結果、在籍者の中には囲碁のプロ2名、将棋のプロ1名、さらに歌舞伎役者など既に一線で活躍する者がおります。彼らは既にその道のリーダーであり、世界的な活躍を期待されています。もう一つは校舎が二つあるということです。中学1、2年生がいる東校舎と3年生から6年生がいる西校舎が徒歩7分程の距離を隔てあります。特に東校舎では学習方法と基本的な生活習慣を自由な環境の中身につけることができます。これら他校にはない二つの点は、生徒の成長に大きく関わっており、本校の進学実績とも結びついているのです。



平成23年度 講演会報告（講演要旨）

〈講演〉

能力の向上に限界なし —本人のやる気と指導力—

講師：元・サッポロホールディングス(株) 取締役社長

岩 間 辰 志 氏



ただいまご紹介いただきました岩間です。先日、本会副会長の久保村さんから「講演をして欲しい」というお話を頂きました。適任ではないのではと申し上げたのですが、お引き受けすることになりました。今日は、幾らかでも参考になればと思って、お話を致します。

東京都の産業教育を振り返ってみたいと思います。東京は、巨大都市です。全ての面で飛び抜けた最上位の立場にあります。この成長の歴史の中で、商業高校・工業高校などの産業教育が地域発展の歴史に如何に大きな力になったか計り知れない事に、改めて思い至ります。

私ども、サッポロホールディングスも、その歴史と共に、密接に関わってきたと思います。サッポロビールの前身は、明治9年の創業の北海道開拓使ビールです。日本人技術者による初めてのビール会社です。また、エビスビールは、当初から現在の恵比寿に設立されて駅名もビール名から生まれたものです。明治時代に、合併して、大日本麦酒となり、東京の産業史と共に大きな関わりを持ってきました。

今回、「東京の産業教育」や「東京の産業と教育」それから「作文コンクール」等を、拝読させて頂きました。皆さんが非常に重要な教育をされており、高い評価を受けていいと思います。作文についても、生徒の夢や仕事観など、読んでいて目頭がジーンとくるものがありました。皆さんが本当に職業教育、産業教育に力を注いでいらっしゃることに、心から感謝と敬意を表したいと思います。

1. 自己形成 —お天道様が見ている—

「自己形成」についてですが、私の出身は信州佐久です。北に浅間山があり、時々大噴火をしました。夜でしたから、山稜を真っ赤な溶岩が走り下り、昼ですと巨大な噴煙がもうもうと上がりました。また村を流れる千曲川・湯川が氾濫して農地が失われる

現場も見ました。その恐怖は言い尽くし得ませんでした。そんな中から、自然に対する畏敬の念も生まれましたし、どうしても自分の手の負えないものがあることも学びました。謙虚さのようなものが、子供の頃から自然に身についたように思います。

そして、母からはいつも「お天道様が見ているよ」と言われました。「正直にやりなさいよ。陰ひなたなくやりなさいよ」「今やるべきことを、しっかりやりなさいよ」と同義語と受け取りました。言い聞かせるべきことは全て「お天道様が見ているよ」という言葉に象徴されていたのです。

2. 社会の変化 —万事塞翁が馬—

世の中は、実に面白いと思います。人の転機はいろいろやって来ます。社会の変化もまた同じです。「万事塞翁（さいおう）が馬」と言いますが、その時々には助けられた事も沢山あります。私は、農家の子ですが、長野工業高校へ行こうと一旦は決めました。ですが、中学の先生の進言で、あっさりとは一番近くの普通高校へ行ってしまうのです。

大学受験のときも某私立大学の英文科に特待生で受かりました。でも、東京の大学に合格したのに、教養課程2年を分校に行くように言われました。で、入学しませんでした。予備校もないのに浪人して『チャタレイ夫人の恋人』や『武器よさらば』を、原書で読んでいました。こんなことで5教科の国立はあきらめて早稲田に入り、4年間を過ごします。ちょっとまじめに勉強はしたと思います。

そして就職は知人の勧めで、サッポロビールを受験し、受かりました。任地は第二希望の大阪でした。サッポロビールは西日本で弱く希望者がなかったのです。赴任した途端に、「今年は、変わった新入社員がいる。大阪を希望して来た」と言われたものです。1年半、私は内勤で、そろばんを使って不遇と言われる物流部門で働きました。これが、後に大変役に

立つのです。1年半後神戸へ営業マンとして転出します。神戸営業所で、私は14年間勤務します。同期入社の中で転勤が最後の人になりました。兵庫県は、他社はそれぞれ工場があり、サッポロは全国で一番シェアが低い県でした。兵庫県内は、くまなく担当しました。この間上司は4人代わり、仕事は任されていました。その後東京の銀座も受け持つ「花の一課」と言われた課の次席として転勤しました。神戸でコツコツやっていたような仕事を東京でも始めます。

3. 企業の現場から ―企業の盛衰 30年―

「企業の盛衰のもととは一体どこにあるのか」と考えますと、30年が、一区切り、1ジェネレーションと言えます。「いい会社だから、行きたいと」就職しても、ずっといいとは限りません。1世代30年は、なかなか続かないのです。また、好業績の時に人が育つわけでもありません。人材については、「2・6・2の原則」があると言われます。2割は優秀、6割はまあ普通で、あとの2割は劣等という分析です。優秀な人を集めても、全員が優秀になるわけでもありません。「2対6対2」に分かれて行くというわけです。従って、この6割をどれだけ数多く戦力化するかが大切です。

また、企業は人が構成するものです。大波も小波も来ます。それに耐えられる組織になっていることが大切です。その基本的にいい人材が必要なのです。どこの企業も人材育成を懸命にやっています。期待するような人材は、なかなか育たないからです。いい人材を育成することが、企業の盛衰を左右するからです。従って企業も懸命に、企業内教育をしています。けれども、なかなか思うように、人は育ちません。従いまして、学生時代から、人材として育つ「ベース」を作ってやって欲しいのです。それが後の人生に非常に大きな力になってくるのではないかと、痛切に思っています。

4. 志と実行力

私は、上役から「うるさい」と言われたことが、しばしばです。上役とやり合いも時々ありました。社長から「支社長からロジスティクス（物流）部長になるのは面白くないだろう」と言われました。「いや、別に、私は、任された仕事はちゃんとやりますから、ご心配なく」と言いました。これは低く見られていた部門への異動ですから、先がないと見られていた部署だったからです。これが「2回目OB」です。神戸に14年いたときが1回目のOBです。『週刊文春』に書かれました。読んだ人からは逆に面白

東京都産業教育



がって、「岩間さんは、2回OBしたのか」と、よく言われました。

会社の業績が悪くなり、私がロジスティクス部長を3年で、取締役になり、5か月後、社長から「営業に戻れ、営業本部長をやれ」と言われます。断っても既に決められていました。3か月たったら、「常務にする」と言われます。また断ったのですが「つべこべ言わないで、とにかくやれ」と。翌年、取締役1年半で社長になるわけです。前社長が日経ビジネスの取材の中で、「火中のクリを拾う選択をさせた」と書かれました。いわゆる再建社長です。末席取締役から社長になったようなものですが、私は、全ての責任を自分が取る決意をして、仕事に邁進しました。5年半社長をやって、会長はせず、平取締役半年、取締役相談役1年、合計7年で退任しました。この間、「とにかく健全な会社にして引き継ぐか、うまく行かなければ自分が全責任を取って退任するか、二者択一」と思って事に当たりました。社長在任5年目、業績も回復し、過去最高の経常利益となりました。

「組織は、やはり生き物です」、生き物は新陳代謝が必要です。また、組織の構成要員が人という生き物です。新陳代謝をし、新しい考え方を入れる必要があるのです。「変えるべきものを変える勇気」と「変えられないものを受け入れる潔さ」という、二つの判断を持てたのが良かったと思います。

また「覚悟というのは、全て自己責任」だという事です。また、「継続は力なり」です。「やってみようということを忍耐強く継続する」ことです。

先生方をお願いしたいのは、学生たちに本当にいい人生を過すための「ベース」を作ってやっていただきたいということです。

ご清聴どうもありがとうございました。

作文コンクール表彰

平成23年度「作文コンクール」を実施いたしました。

○中学校の技術・家庭科、高等学校、専修学校、高等専門学校及び短期大学等における産業教育に関する学習を通して体験したことについて述べたもの

○勤労に係わる体験的な学習によって学び得た人生観・職業観、自己の将来に対する考え方や心構え等について述べたもの

という内容で作品を募集しました。

＜高等学校・専修学校の部＞応募作品 115

最優秀賞「病院実習を通して感じたこと」

優秀賞「酪農体験」

「存在理由」

「私が目指すこと」

このほか、13点が佳作として入選しました。

＜中学校の部＞応募作品 155

最優秀賞「ブドウ畑からの贈り物」

優秀賞「信頼の輪」

「働くということ」

「働くということ」

このほか、18点が佳作として入選しました。

最優秀賞、優秀賞、入選作は、作文集「明日に生きる」第22号に掲載させていただきます。

今年度もたくさんの応募をいただきありがとうございました。

＜敬称略＞

愛国学園高等学校	3年	飯島 奏美
都立農産高等学校	2年	原 美優
都立瑞穂農芸高等学校	2年	山崎 明日香
愛国学園高等学校	3年	櫻岡 恵

＜敬称略＞

都立白鷗高等学校附属中学校	3年	小林 まりあ
都立大泉高等学校附属中学校	2年	中澤 萌
北区立十条富士見中学校	3年	小島 諒子
都立白鷗高等学校附属中学校	3年	林 日向子

産学懇談会

平成23年11月11日（金）に都立忍岡高等学校において、生活科学科の協力をいただき、「高等学校家庭科等における教育に関する理解を深め、東京における産学連携と産業教育の発展に資する」をテーマとして産学懇談会を実施しました。

授業見学・施設見学の後懇談に移り、学校の概要説明、教育課程、本日の授業の位置づけ等のお話の後、授業・教育課程への質問、教育内容を充実させるための工夫について、専門教育ならばこそその就職・進学の指導について、専門学科におけるキャリア教育について、など活発な懇談会となりました。

参加いただいた皆様方、また浦部校長先生、田邊先生、寶迫先生をはじめ、忍岡高等学校の皆様方のご協力に深く感謝申し上げます。



東京都産業教育振興会 ホームページアドレス

<http://www.tosanshin.org/>

事務局より

○平成23年度「会報」141号をお届けいたします。

会報の編集、発行にご協力いただきありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

再生紙を使用しています

発行 東京都産業教育振興会
〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1
東京都教育庁都立学校教育部
高等学校教育課内
電話 03-5320-6729
FAX 03-5388-1727
印刷 株式会社小葉印刷所